



小中学校における特別支援教育支援員の やりがいと困難さに関する実態調査

キーワード インクルーシブ教育, 小中学校, 特別支援教育支援員

研究内容

小中学校におけるインクルーシブ教育の実現と充実を目指すために、特別支援教育支援員の果たす役割は大きいと考えます。全国的に支援員の数は、増加をしている一方で、支援員の職務の内容や条件についての基準の不明確さや、教員と連携を図るための時間や場所の確保の困難さなども指摘されています。また支援員は児童生徒との日々の関わりにやりがいを感じながらも、課題解決のための連携に関して困難さを抱えている実態もうかがえます。そこで、私たちの研究グループでは、支援員のやりがいと困難さに焦点を当てた実態調査を行っています。調査結果を基に、支援員がやりがいを持って職務に携わり、教職員と連携して課題解決ができるための環境づくりについて提案をしたいと考えています。



日本リハビリテーション連携科学学会
第24回大会におけるポスター発表

関係論文、特許・著作物等の知財情報、連携の実績

- ・日本特殊教育学会 第61回大会 自主シンポジウム「小中学校における特別支援教育の在り方を考える - 特別支援教育支援員の支援のやりがいと困難さに関する調査研究から -」話題提供, 2024年
- ・日本リハビリテーション連携科学学会第24回大会「特別支援教育支援員の支援のやりがいと困難さに関する調査研究(1)量的調査より」ポスター発表, 2023年

社会連携・産学連携の可能性

各市区町村教育委員会等、支援員の研修やサポートを行う機関への情報提供及び研修等への協力が可能です。